

# 明日は創立記念日！

## 明治時代に女子教育始まる

明治時代には、義務教育の普及を目指し女子教育が始まりました。義務教育を終えた女子は家にとどまるか、裁縫学校などに通って嫁ぐ日に備えるのが一般的でした。しかし、明治の後半には女子に対してもさらに上の中等教育を要望する声が高まり、県立高等女学校が設立されました。

県立高等女学校設立

5月21日は創立記念日です☆  
それでは、その由来は？

開校当時の写真



## そして大正時代に！

大正時代には、さらに高度な教育への要望がふくらみました。水戸では、男子は県立の他に市立の茨城中学があり入学難は緩和されていたのですが、女子の方は、県立高等女学校が1校あるだけで、200名の募集枠に900名に近い志願者が集まったこともあるぐらいの入学難でした。

しかし、第1次世界大戦後の不況で県に高等女学校を新設する余裕はなかったもので、その状況を見かねた水戸市の当局や市議員の尽力の結果、市財政の中から経費を捻出して市立高等女学校（本校）が設置されることとなったのです。

大正15年に文部大臣の認可が下り生徒募集を始めると、100名定員のところ395名の応募がありたいへんな人気であったようです。結局、入学を許可されたのは124名で、開校式に先立って4月16日に入学式が挙行されました。

開校式は初代校長遠峰亮先生の着任を待って、1ヶ月後の5月21日に市長、県知事来席のもとで実施されました。以来、5月21日が創立記念日となり今に至っています。

大正15年5月21日  
水戸市下市尋常小学校(横竹隈町)敷地内に  
水戸市立高等女学校が開校される！